

日本フィルハーモニー交響楽団 正指揮者山田和樹

契約延長決定！！

(2015年9月～2017年8月)

日本フィルの正指揮者に就任してから早一年半。「Y's style」という独自のカラーを打ち出していただき、定期演奏会だけでなく、「コンチェルト・シリーズ」など自分でプロデュースする演奏会もさせていただいています。今、自分にとって日本フィルは「一番やりたいことが実現できるオーケストラ」です。日本フィルは演奏面でも、小林研一郎先生をはじめ、マエストロ・ラザレフ、インキネンという豪華な指揮者陣のもと、日々着実に進化を続けているところです。その指揮者陣の一員として、この発展にもっと長く携わっていければと思っていたところ、正指揮者としての契約期間を2年間延長していただけることになり、とても嬉しく思っています。



そして来年からは念願のマーラー交響曲全曲演奏がスタートします。今の時代、マーラー・ツィクルス自体は珍しいことではなくなっていますが、今回の特色の一つは、武満徹作品とのカップリングです。3年がかりでマーラーに挑戦すると意気込んだ時に、自然と武満さんのお顔が浮かんできたのですが、武満さんの音楽とマーラーの音楽を掛け合わせて、「日本から世界へ」という大きなキーワードを持ったプロジェクトになればと思っています。「日本」にこだわるという意味では、共演者も全員日本人の方々をお願いしています。「今の時代にこそ、外国人に頼らず、日本の才能を結集して…」とは、長らく評議員、理事として日本フィルを支えてこられた故三善晃先生のお考えでもあったと聞いています。

任期を延長していただいたことで、2016年には日本フィルの創立60周年という節目と一緒に過ごすことが出来ます。日本が誇る日本フィル、世界が認める日本フィルであるように、微力ながら精一杯取り組んでいきたいと思っています。

日本フィルハーモニー交響楽団
正指揮者 山田和樹

・・・プロフィール・・

東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。

第51回ブザンソン国際指揮者コンクール（2009年）で優勝後、ただちにモントルー＝ヴェヴェイ音楽祭にてBBC交響楽団を指揮してヨーロッパデビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮、すぐに再演が決定する。2010年には、小澤征爾氏の指名代役としてスイス国際音楽アカデミーで、2012年8月には、サイトウ・キネン・フェスティバル松本で指揮し、絶賛された。日本国内の主要オーケストラで客演、ヨーロッパをはじめとする海外の主要オーケストラでも活躍の場を広げている。横浜文化賞文化・芸術奨励賞（2010年）、出光音楽賞（2011年）、渡邊曉雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞（2012年）を受賞。

現在、スイス・ロマンド管首席客演指揮者、日本フィル正指揮者、横浜シンフォニエッタ音楽監督、仙台フィルミュージック・パートナー、オーケストラ・アンサンブル金沢ミュージック・パートナー、東京混声合唱団音楽監督。2014年9月よりモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者に就任することが決まっている。

日本・スイス国交樹立150周年親善大使。ベルリン在住。

※本情報の解禁は4月21日(月)14時からとなります。情報の取り扱いには十分ご注意ください。